〔ウニコナゾールＰ液剤〕

スミセブン®Ｐ液剤

農林水産省登録　第１８００９号
性　　状：無色透明水溶性液体
毒　　性：普通物
危 険 物：—
有効年限：４　年
包　　装：500 ㎖×20 本

有効成分：ウニコナゾールＰ ……0.025%

「住友化学農薬ガイド」の見方：i-農力サイトの「製品情報」、「農薬ガイドを見る」から、「農薬ガイドの見方」をご覧ください。
本剤の最新情報：こちらの２次元バーコードを読み取ると i-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

〔適用と使用法〕

作物名	使用目的	希釈倍数	使用時期*	総使用回数*	使用液量	使用方法
きく（ポットマム）	節間の伸長抑制（矮化）	25～50 倍	摘芯 10 日後頃	２回以内	５～10 ㎖／５号鉢（原液 0.1～0.2 ㎖／５号鉢）	茎葉散布
		50～100 倍			50～100 ㎖／５号鉢（原液１㎖／５号鉢）	土壌灌注
ポインセチア		15～25 倍			５～10 ㎖／５号鉢（原液 0.3～0.5 ㎖／５号鉢）	茎葉散布
つつじ類（鉢栽培）	節間の伸長抑制（矮化）および着蕾数増加	15～20 倍	新梢伸長初期			
いちご（とよのか（促成栽培））	徒長防止による健苗育成	50 倍	低温暗黒処理 7 日前～直前	１回	10 ㎖／株（４号鉢）（原液 0.2 ㎖／株）	
てんさい	育苗期の伸長抑制	10～20 倍	本葉抽出期（本葉長２㎜以上）～移植２週間前		ペーパーポット１冊当り 50 ㎖（原液 2.5～5 ㎖／冊）	
		100 倍			ペーパーポット１冊当り 500 ㎖（原液５㎖／冊）	
水稲	育苗期の徒長防止	250～350 倍	催芽前（種子消毒後）	**本剤：１回** ウニコナゾールＰ：２回以内（種子浸漬は１回以内、本田では１回以内）	籾と薬液の容量比 １：１以上	種子浸漬（15～24 時間）
キャベツ	育苗期の伸長抑制	250～1000 倍	定植前 子葉展開期～本葉３葉期	１回	セル成型育苗トレイ１箱またはペーパーポット１冊（30×60 cm、使用土壌約 1.5～４ℓ）当り 50～100 ㎖	茎葉散布
			は種後 出芽前			土壌灌注
レタス			定植前 子葉展開期～本葉２葉期			茎葉散布
			は種後 出芽前			土壌灌注
トマト		100～200 倍	定植前 子葉展開期～本葉２葉期			茎葉散布
アゲラタム	茎葉の伸長抑制による小型化	５～10 倍	育苗期 本葉２～４葉期		0.5 ㎖／株	

作物名	使用目的	希釈倍数	使用時期*	総使用回数*	使用液量	使用方法
インパチェンス	茎葉の伸長抑制による小型化	10 倍	鉢上後	1回	2 mℓ／株	茎葉散布
金　魚　草		50 倍	育苗期 本葉2～4葉期		0.5～1 mℓ／株	
け い と う		25 倍			0.5 mℓ／株	
サ ル ビ ア		12.5～25 倍				
パ ン ジ ー		50～100 倍				
ヒ ペ リ カ ム（鉢 栽 培）		12.5～50 倍	育苗期（萌芽10日後、萌芽30日後及び萌芽50日後）	**本剤：3回** ウニコナゾールP：3回以内	5～10 mℓ／5号鉢	
ゼ ラ ニ ウ ム		25～50 倍	育苗期 本葉2～4葉期	1回	0.5～1 mℓ／株	
日　々　草		50 倍	定植後 本葉3～4節時			
は ぼ た ん		10 倍	育苗期 本葉2～4葉期及び鉢上後	**本剤：2回** ウニコナゾールP：2回以内	2 mℓ／株	
ペ チ ュ ニ ア		25～50 倍	育苗期 本葉2～4葉期	1回	0.5～1 mℓ／株	
まつばぼたん		12.5～25 倍			0.5～2 mℓ／株	
マリーゴールド		10 倍				
		5～10 倍	鉢上後			
シンフォリカルポス（鉢 栽 培）		12.5～25 倍	鉢上時(摘心時)、鉢上後約20日及び鉢上後約40日	**本剤：3回** ウニコナゾールP：3回以内	5～15 mℓ／5号鉢	

作物名	使用目的	使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法	適用地帯
たまねぎ	育苗期の伸長抑制	トレー(30 cm×60 cm) 1枚当り原液 1～2.5 mℓ	は種時	1回	培養土混和（※）	北海道

※原液を水で希釈し、育苗培養土に均一に混和してトレーに土詰め後、は種する。

〔効果の現れ方〕

●茎葉散布の場合速やかに伸長抑制効果を発現します。
●土壌灌注の場合は散布した場合より徐々に効果が発現し、かつ長時間持続する傾向があります。
●植物体内への吸収と移行は根部から速やかに吸収され植物全体に移行します。
●茎葉に散布した場合は上方へは移行しますが、下方移行性はありません。

⚠効果・薬害等の注意

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
●本剤の所定量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布または灌注する。
●他の薬剤との混用はさける。
●栽培管理が不適当な場合は、十分な効果が得られないことや効果が強すぎて生育が遅れることがあるので、適切な栽培管理のもとで使用する。
●本剤の伸長抑制効果は、作物の種類や品種、栽培条件、処理方法などによって異なるが、

一般に使用薬量が多いほど効果が高くなる傾向があるので、希望する抑制程度に合わせて所定範囲内で決める。

●茎葉散布の場合は植物体全体、とくに新葉部に均一にかかるように散布する。

●土壌灌注により処理する場合は所定量の水にうすめ、鉢土全体に均一に灌注する。
土壌が過湿状態の時は使用をさける。

●いちごに使用する場合は、次の事項を守る。
○生育に影響を及ぼすので、所定の作型、使用時期等以外では使用しない。
○充実の悪い苗には使用しない。
○親株には使用しない。

●きく（ポットマム)、ポインセチア、つつじ類に使用する場合は、本剤の使用薬量が多くなるほど開花時期が遅れる傾向があるので留意する。

●レタスに使用する場合は、早期の処理ほど生育が遅れる場合があるので留意する。

●たまねぎに使用する場合は、必ず、原液を育苗培養土調製時に加える水にうすめ、育苗培養土に均一に混和する。

●アゲラタム、インパチェンス、金魚草、けいとう、サルビア、ゼラニウム、日々草、パンジー、はぼたん、ペチュニア、まつばぼたん、マリーゴールドに使用する場合は、栽培条件や、使用時期などによって定植後の回復、開花率や開花時期、花径等への影響がでる場合があるので、留意する。

●シンフォリカルポスに使用する場合は、散布後液溜まりとなった部分に一過性の黒変症状が観察される場合があるので留意する。

●適用作物以外の作物にも影響を及ぼすので、周辺の作物に薬液がかからないように注意して散布する。

●本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には使用する作物で予備試験を行うか又は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用する。

⚠安全使用上の注意

●本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
使用後は洗眼する。

●使用の際は不浸透性手袋などを着用する。

●浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

●直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

「農薬ガイドの見方（https://www.i-nouryoku.com/prod/search/農薬ガイドの見方.pdf)」の「３．注意事項：(1)、(2)、(3)、(4)－D」も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

●トリアゾール系の植物成長調整剤です。

●ジベレリンの生合成を阻害し、節間伸長抑制と着花促進に効果があります。